

私が住みたいまち

住んでみたいまちが、住みたいまちでしょうか？色々な年代の人々が住んでいる大都市も町も村も、現在の日本は高齢化が進んでおります。今は若くとも高齢者となる時が参ります。高齢者も若い方々も安心して心豊かにいつまでも「住みたいまち」について、想いをめぐらせて見ました。

住んでみたいまち？



人間って欲張りなもので、「住んでみたいまち」のモデルにも色々目移りします。「静かな田舎に住んで晴耕雨読もいいかな」秋には黄金色の稲穂に彼岸花のコントラストが美しく、静かな環境が得られそう。自宅は伝統的な和風にして、ゆったりと生活するのもいいなあ。

「それとも海辺の町に住むのも

いいかな」海に沈む美しい夕日を見ながら一日の仕上げは美味しいお酒でも楽しんで、休日には魚釣りなんてどうだろう。

「モダンな美しい街もいいかな」駅前にはインターロッキング舗装された歩道に、おしゃれな感じのお店が並んで時々食事やコーヒーが楽しめる。

それとも「近代的な都会で殆



ど歩かなくても用を足せる街」もいいかな。生活に必要な機関が集中しており職場にも近くて、各種の公共施設や病院も近くにあるようなまちは便利だろうと思う。

住んでみたい町には沢山の要望と思惑や夢が込められていると思います。



日本の伝統

最近の新聞を見ると物騒な事件が多く、殺伐とした事件が後を絶ちません。昔より物質的には豊かになり、教育環境は整っている筈なのですが、道路脇にはごみが落ちており、夜中まで騒々しい車が走り回る落ち着かない町になってきているように感じます。

昔と何が変わってきているのでしょうか？日本古来の精神文化は恥の文化といわれております。ここ何代かで奥ゆかしい日本の文化が失われ、治安も少しずつ悪化しているように感じるのは私だけでしょうか。

これを改善するのは教育しかないと思います。25人学級とか30人学級の話ではなく、日本文化の伝承教育です。子供のけんかにもルールがあり、卑怯という言葉がありました。子供心に卑怯といわれるのが恥でした。からかいはあっても、苛めが少なかった所以かもしれません。

小学校当時、ヤンチャな私は先生に叩かれることもありました。叩いた後で先生は「何故叩かれたか、お父さん・お母さんにお話しなさい」と言って帰します。私はどの様に話しようか考えます。考えたら、「やっぱり、お前が悪い」と親からも叩かれるのは間違いないと悟ります。今考えるとPTAがお互いの信頼の上によりしっかり機能していたのだと思います。今はどうでしょうか。

昔の親・大人は子供の教育に熱心でした。子供が不始末をすると親が笑われる。真っ当に育たなかった子供は気の毒だが、育てられなかった大人も恥ずかしいと云う思いが心底にあるからだと思います。「親の顔が見てみたい」と言う言葉がありました。見知らぬ大人に叱られることもありました。

「自分を自分で律する」これが日本の伝統である柔道・剣道・茶道・華道など「道」と名の付く修行ではないでしょうか。

柔道とは身体の鍛錬と精神修養を目的とし、相手の攻撃力に順応して防御・攻撃を行う技であり、強さのみを求める国際ジュードーとは異質なものだと思います。余談ですが、シドニーオリンピックで男子100kg超級篠原選手の「内股すかし」を判定できなかったのは、外国人の審判がこの違いを理解できなかったのが遠因かと思います。

ごみのない美しいまちに住みたい。では、毎日人々が活動する前に町の清掃を行うのが理想なのでしょうか。それとも、清掃する必要のない町のほうが理想なのでしょうか。見た目は同じように見えますが、心の豊かさには雲泥の差があります。日本の伝統では他人に迷惑をかけることを嫌います。

他人に迷惑をかけることは恥ずかしいこと。自分を律することが出来ないのは恥ずかしいこと。大人として子供にきちんと指導できないことは恥ずかしいこと。「日本の文化は恥の文化」と言われる所以だと思います。

いくつかの例を述べてきましたが、箸の使い方には日本文化の縮図と見ることが出来ると思います。時代を経るごとに箸の使い方が下手になっています。

社会全体が安易なほうに流れ、本質を求めなくなっているからだと思います。

小学校の給食では先割れスプーンを用いており、子供に魚離れが起きると骨抜き魚を与えると聞きます。本当は新鮮で美味しい魚の味を教えるべきで、骨が取れないのなら箸の使い方を教えるべきなのです。箸の使い方を教えるのは家庭の仕事で、箸を使えない子が多いのはその背景にある環境が、歪みつつあるからではないでしょうか。

塾の提案

今の日本には健康な熟年者が増え、少子化により学校校舎・設備に余裕のある状態だと思います。これを効果的に利用して、失われつつある日本の精神文化の再構築を図りませんか。

若い人より熟年者に日本の古きよき伝統を理解している方が多いように思います。そこで熟年者を講師に、余っている校舎の一部を利用した日本文化伝承塾の開設を提案します。住民全員が世代を超えて日本文化の伝承者としての使命を担い、将来に夢を託したいものです。

熟年有志の方々にはボランティアで講師を買って頂き、現在の教育で置き去りにされている部分を補強して頂きたいのです。

前述しましたが、本質が忘れがちになり、似ているものに惑わされ、よき伝統が薄れている。これの方向修正には伝統を重んじた家庭教育、社会教育を充実させ、所作の美しい人を輩出したいものです。

住み続けたいまち

乗ってみたい車と乗り続けたい車が一致しないように、住んでみたいまちと住み続けたいまちも微妙に違います。住み続けたいまちには、派手さはありませんが、落ち着きと安心感が不可欠です。そして他に誇れる精神文化が熟しておれば申し分なしです。

見た目の美しさや派手さよりも、「魅力と安らぎのある安全なまちに、心安らかに住み続けたい」が私たちの望みではないでしょうか。もっと住みやすい町にするために、日本の精神文化復活を拠り所にし、その拠り所を堅固なものにする方策として年配者の知恵の借用と、余剰校舎など教育施設の有効利用で夢を膨らませることが出来るのではないのでしょうか。

非常に地味で効果が見えにくいのですが、今のままでは日本は無国籍のジャポンになってしまいます。私は日本の好きな日本人です。日本に住み続けたい。